しぶやをつくるゼミ

Shibuya City
Imagination and Creation
Seminar

Archive Report

2023–2024

しぶやをつくるゼミ 3期について

はじめに

「しぶやをつくるゼミ」は、“いろんな人と自由に意見を交換できる場をつくり、そこで生まれた意見やアイデアをもとにして共に活動をつくっていきたい”という思いから始まった活動です。渋谷のまちづくりを推進する一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメントと、渋谷で生涯学習を支援する特定非営利活動法人シブヤ大学が協力することによって誕生しました。

しぶやをつくるゼミに参加するための資格はありません。渋谷のまちに興味がある方はもちろん、ちょっと苦手だなと感じる方も、あるいは実践的な活動から学んでみたい方でも、誰でも参加することができます。
ゼミでは、住む人、働く人、訪れる人、街をつくる人など様々な人が自由に話し合い、自分たちの好奇心や探究心を軸に活動を決めていくところからスタートします。

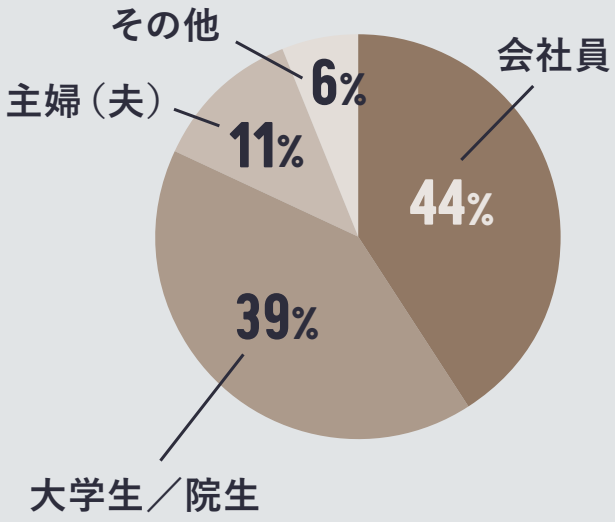
「100年に一度」と言われるほどの大開発が進む都市、渋谷。
変わり続ける渋谷のまちに集まった人たちから、どんなものが生まれてくるのでしょう？
一人ひとりの「やりたい！」という思いを軸に、他者と一緒に行動してみることで、きっと面白く、より楽しいものが生まれてくるはず。
しぶやをつくるゼミは、一人ひとりの思いとまちをつないでいく存在であることを目指しています。

3期参加者の情報

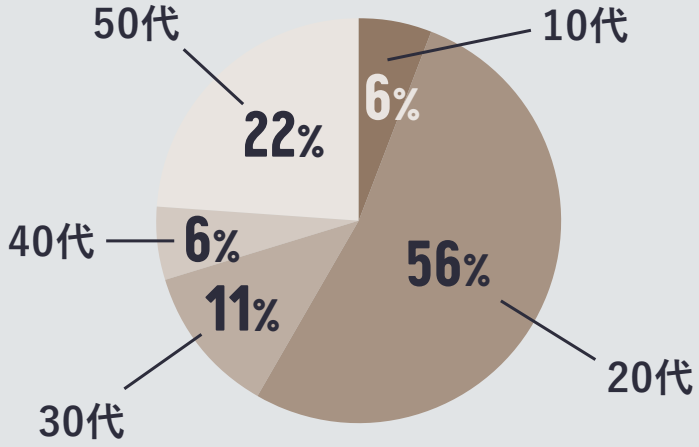
しぶやをつくるゼミ3期では、渋谷区民、渋谷に職場や学校がある人、そして渋谷にこれまで縁がなかった人など、10代から50代までの応募がありました。渋谷区で生まれ育ち地元について考えたい方、都市計画関係の仕事をされている方、プログラム運営に関心がある方、実践を通じた学びを求めている方、建築やまちづくりについて学んでいる大学生など、様々な動機でご参加いただきました。

ゼミ生データ（18名）

［職業］



［年代］



［渋谷との関わり］

渋谷区在住	2
渋谷区在勤/在学	3
月に数回行く	8
年に数回行く	5
その他	2

※複数回答

3期の狙いや
テーマ設定について

「しぶやをつくるゼミ」では、一人一人の好奇心や探究心を軸に活動が進んでいくこと、そして既存の考え方に囚われない自由な発想が生まれてくる活動とすることを大切にしています。そのために、プロセスを重視し、自分たちで活動を決めていく余白を多く持たせるプログラムとしています。グループでの活動に重きを置き、運営側から伝える情報はあくまでゼミ生のアイデアやそれに至った背景を応援するものに限っています。

3期では、できるだけ実践を通じた深い気づきを得ることを狙いとして、「私が歩きたくなるまち・通りとは？」というテーマを設け、意図的にまちに出る機会を増やしています。初回には、（一社）渋谷駅前エリアマネジメントのメンバーが案内役となり、エリアマネジメントの観点からまちを歩くなど、専門的なインプットを取り入れていますが、2回目以降はグループで話し合う時間を十分に取り、実際にまちに出て実践を重ねながら、自分たちで活動を決めていく構成としています。

日程：2023年10月～2024年2月（全7回）

- ① 10/28（土） オリエンテーション、まち歩き
- ② 11/09（木） グループワーク
- ③ 11/25（土） フィールドワーク
- ④ 12/14（木） グループワーク
- ⑤ 01/18（木） 中間共有会
- ⑥ 02/08（木） グループワーク
- ⑦ 02/29（木） 最終共有会

各回の記録

全体スケジュール

日程：2023年10月～2024年2月（全7回）

1 ▸ 10/28（土）：オリエンテーション、まち歩き

・ゼミ説明
・メンバー自己紹介
・渋谷駅前エリアマネジメントの説明
・渋谷駅前エリアマネジメントの皆さんと一緒に、渋谷のまちを歩く

2 ▸ 11/9（木）：グループワーク

・関心ごとにグループに分かれる
・フィールドワーク先として
訪れる場所や話を聞きたい人のアイデア出し

3 ▸ 11/25（土）：フィールドワーク

・自分たちで設定した場所や人の元を訪れる
・次回以降に向けたアクションの決定

4 ▸ 12/14（木）：グループワーク

・フィールドワークをもとにした振り返り
・自分たちが歩きたくなるまち・通りについてのアイデア出し
・中間共有に向けた準備

5 ▸ 1/18（木）：中間共有会

・チーム活動の中間共有と意見交換

6 ▸ 2/8（木）：グループワーク

・中間共有会を踏まえたブラッシュアップ
・フィールドワーク

7 ▸ 2/29（木）：最終共有会

・外部の方も招き、各チームの発表と意見交換

第1回

オリエンテーション・まち歩き

ついに第３期しぶやをつくるゼミがスタート。18名のメンバーが集まった。

この日のプログラム

- 「しぶやをつくるゼミ」の紹介
- 自己紹介
- 渋谷駅前エリアマネジメントからのまち歩きヒント
- まち歩き
- 振り返り

事務局日記

　ついに第３期しぶやをつくるゼミがスタート。18名のメンバーが集まりました。３期の開講に当たっては、このゼミの在り方やどうしたらもっと魅力的なプログラムになるかをたくさん検討してきましたが、不安と楽しみが半分といった気持ちで迎えた初回でした。

　そんな不安が解消されたのは自己紹介の場面。ユーモアのあふれるコメントが連発し、一気に打ち解けた雰囲気になりました。

　まち歩きも、面白いと思ってもらえるのかとても不安でしたが、まちづくりの仕事に携わる人間にとっても新鮮な発見がたくさんありました。きっとこのゼミは素晴らしいものになると、初回から強く感じることができたのでした。

第2回

グループワーク

この日のプログラム

・チーム分け

～マグネットテーブルという手法で、
それぞれの興味関心について意見交換しました

・チーム決定・チームで議論

～チーム名決定、
次回のフィールドワークでの活動内容を検討しました

事務局日記

この日は、渋谷駅前の観光案内所shibuya-sanで開催。初めて来ました、というゼミ生も多く、このゼミを通じて、「初めて知る渋谷」にたくさん出会う機会があればいいなと思います。

今日の宿題は「疑問形で終わる問いを３つ考えてくる」こと。この問いを入口にメンバーどうしでコミュニケーションを深め、ゼミ活動のためのチームを結成。「マグネットテーブル」という一人一人が話し合いたいテーマを紙に書き出し、歩きながら対話を行う手法を活用し、主体的にグループをつくっていきました。

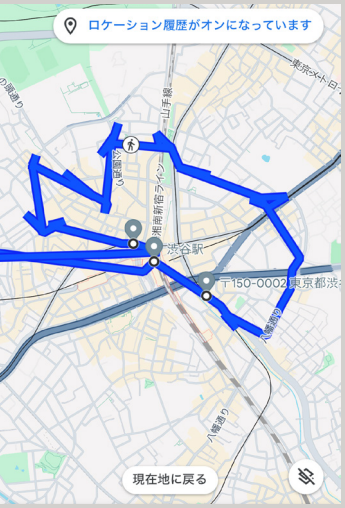
５つのチームが誕生し、さっそく次回のフィールドワークに向けた話し合いがスタート。いよいよしぶやをつくるゼミの醍醐味ともいえる自由なグループワークがはじまりました。

第3回

フィールドワーク

この日のプログラム

・各チームごとに行き先を決めて
　自由にフィールドワークを実施しました



事務局日記

３期のゼミでは「まちへとびだす・小さなことでもやってみる」ことを大切に、プログラムを企画しています。第３回はそれをぎゅっとつめこんだ回です。行先も内容もチームごとに100%自由なフィールドワークを実施しました。東口地下広場に各チームが集合して、出発していく様子を、事務局もワクワクした気持ちで見送りました。

　各チームの報告には「感性を頼りにひたすら練り歩いた」「フォントの研究」「パリピの観察」「新しいスポットのリサーチ」といった気になるワードがたくさんありました。

番外編　コミュニティとチョコレート

「各チームが考えを深めながら最終共有会を迎えてほしい！」というのがもちろん事務局として目指すところですが、スタートした時に小さな裏ゴールとして設定したことがありました。それが「お土産を買ってくるようなコミュニティ」です。実際に、ゼミの差し入れにチョコレートやクッキーをくれたゼミ生が何人も出てきて、ゼミの休憩時間にはお菓子を食べながら雑談をする風景が定番になりました。それ以外にも「みんなで大学の公開授業を受けたんです」「落語を聴きに寄席に行ったよ」なんていうエピソードも。いくつになっても新しい友達ができるって嬉しいものですよね。

第4回

グループワーク

この日のプログラム

・各チームでグループワーク
～「私が歩きたくなるまち・通り」を改めて考えました

事務局日記

この日のお題はこれまでのフィールドワーク等から「私が歩きたくなるまち・通り」を改めて考えることでした。どのチームも面白い意見がたくさん出てくる一方で、思った以上に表現することが難しく、考え込んでいる様子も見受けられました。

印象に残っているのは、休憩中のワンシーン。こんなことを考えている、悩んでいる、といった積極的な意見交換がされていました。この時間こそがとっても大切で、いろんな人の考えを大事にしようという、ゼミの本質なのかもしれません。

第5回

中間共有会

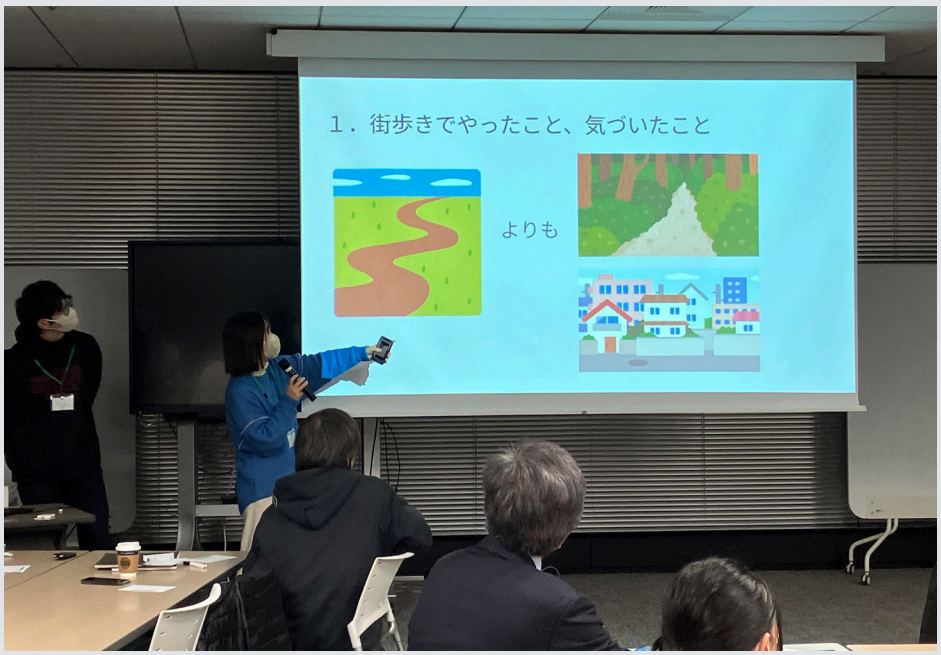
この日のプログラム

- 各チームからの中間共有
- 共有とフィードバックを踏まえたグループワーク

事務局日記

この回も事務局にとってはかなり緊張感のある回でした。最終共有会につなげることが一番の目標。どんな形式でお互いの考えを披露すればよいか、かなり悩みました。

各チームの発表もとても興味深いものでしたが、印象に残っているのはゼミ生全員で書いたフィードバックです。「発表は話す人ではなく聞く人が大切」というファシリテーター深澤さんの言葉はまさにそのとおりで、皆さんの丁寧なメッセージによって、新しい発見や、次へのヒント、たくさんの良いきっかけが生まれていきました。



第6回

グループワーク

この日のプログラム

・各チームでグループワーク
～最終共有会に向けて考えたり、まちを歩いてみたりしました

事務局日記

この頃には、事務局が声をかけなくてもメンバーそれぞれが挨拶を交わし、今日取り組むことを考えている様子が見受けられました。集合後、早速まちに出ていくチームも。
半年間駆け抜けてきたしぶやをつくるゼミも、次回が最終回。ついにここまできたという充実感と最終共有会へのわくわくを感じた日でした。

番外編　ゼミの放課後・課外活動

通常木曜日の夜開催のしぶやをつくるゼミ。白熱した議論であっという間に2時間が過ぎ、終わるのはいつも21時頃。それでも「ちょっとご飯行きましょうか」の声かけにたくさんメンバーが集まります。

20代から50代まで多様なメンバーが集まるこのゼミ。この時間が楽しかった、印象的だったと語ってくれた人も多くいました。

最終共有会

最終共有会

「私たちが歩きたいまち・通りとは？」というテーマに対し、4ヶ月間の活動を踏まえて5つのチームが発表しました。

チーム名
「渋谷しぶやシブヤ Shibuya」
1
▶P.16

チーム名
「チーム雰囲気」
2
▶P.17

チーム名
「渋谷未来（shibuya-future）」
3
▶P.18

チーム名
「チーム曲がり角」
4
▶P.19

チーム名
「パリピ」
5
▶P.20

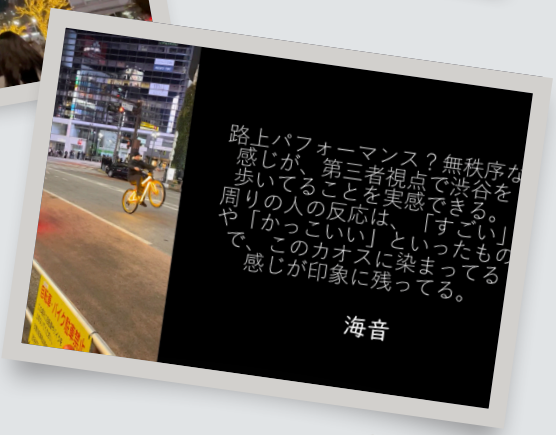
渋谷しぶやシブヤShibuya

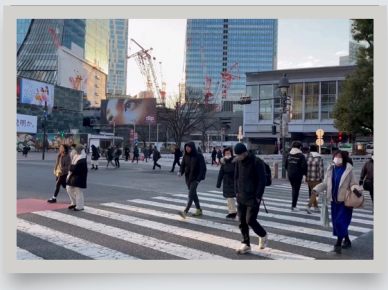
CONCEPT

「水に濡れないように川に入って行くようなまち」

（自分が空間から切り離され、自分の存在を忘れられるまち。
時間の流れが遅い（早い）まち。視線が動くまち。）

チームメンバーが思う渋谷のまちのベスト3を動画にまとめて発表しました。ストリートスナップの様子、まちの風景、それぞれが切り取ったシーンは多様なのに、動画からは渋谷らしさと歩きたくなる街の要素が強く伝わってきました。





動画リンク

https://youtu.be/BvWnvSWVIdE?si=baxNwFMDWb-pCus3

チーム雰囲気

CONCEPT

「「わたし」が「好きでたまらない」モノや体験、そして「出会い」と「ゆるやかな繋がり」があるまち・通り」

検討期間から「わくわくメーター」という素敵なワードが出てきていましたが、最終共有会ではどこよりもたくさんのアイデア提案がありました。突き抜けた「好きでたまらない」スポット、同好会、まちのマッチングアプリ。トガったアイデアながらも、渋谷にあったらいいよね、と思うものばかりでした。

渋谷未来（shibuya-future）

CONCEPT

「進化が感じられるまち」

様々なメンバーが所属しているしぶやをつくるゼミの中でも、最も多様な世代がそろっているチーム。メンバーそれぞれが進化を感じる渋谷のスポットやトピックスを力強くプレゼンしました。「進化」という言葉ひとつとっても、こんなに多様なとらえ方があるのだということ、そして渋谷というまちがこんなに日々進化にあふれているのだということに気づかされました。

チーム曲がり角

CONCEPT

「非日常につながる曲がり角」

やばい曲がり角＝略して「ヤバカド」に注目し、最終共有会にお手製の「ヤバカド図鑑」を携えて登場！道玄坂の六差路や歴史が深い曲がり角、角をキャラクターに例えてみたり、生成AIで作成されたまだ見ぬ角などが載っており、ユーモアにあふれた発表で会場は驚きと笑いに包まれました。

パリピ

CONCEPT

「開拓しがいのある通り? ガヤガヤした渋谷が苦手な人のための逃げ道（オアシス）? ごちゃごちゃとした賑やかさこそが渋谷らしさ!」

「渋谷にはなんでパリピが多いんだろう？」という素朴な疑問からスタートしたチーム「パリピ」。開拓しがいのある通りの要素を洗い出すためにカオスマップづくりにチャレンジしたり、逆に自分たちが“嫌だな”と思う要素を元にハザードマップを作成したり。最終的には生成AIで作られた画像を紹介。渋谷へ足を運んだ調査内容とプロセスを丁寧に伝えました。

ゼミ生の声

参加したきっかけ

小野ちゃん

地元が渋谷です。転職の時期、次は何をしようかと考えているなかで、地元に関わりたいと思いました。このゼミを通じて、渋谷のおいしいお店から知られざる深い魅力まで、「知らないことを知れるかも」と思い参加しました！

山P

大学で日本文学を学んでいますが、知らない分野に触れてみるのも面白そう！と思って参加しました。あと普段は同世代と話すことが多いので、「いろいろな大人と話してみたい！」と思ったことも大きいです。

あっかー

普段の仕事は都市計画コンサルですが、プレーヤーとしてまちに関わってみたいと思い参加しました。地元でまちに小さなアクションを起こしてみたいです。

みっちゃん

高校・大学では渋谷区に通学し、社会人になっても週1回は渋谷区に通っています。育ててもらったまちである渋谷のまちづくりに参加したいという気持ちで応募しました。

けーたろー

都市政策を学んでいて、実践的なことをやりたくて参加しました。様々な年代の方と交流してより良い街にするためのチャレンジをしたい！

ゼミに参加して得た学びや気づき

1/3

よっしーさん

バックグラウンド、属性等の異なる人たちの集うコミュニティで、自由にディスカッションすることの楽しさをあらためて思い知った気がします。視点、視野とか生きるスピード等について再考し、気付くきっかけになりました。

こうだい君

渋谷のネガティブなイメージがあまり無くなった。色々な人の街歩きの視点を知ることができ、今後の街歩きの際に新たに見るところが増えた。

みさとさん

渋谷に対するネガティブなイメージが変わりました。それを発信していけたらいいなと思います。

みっちゃん

何度も歩き回り、いつも行かないエリアのカフェに入り、情報を調べては、一人でも、何度もシブヤを歩いた。高校時代、大学時代とシブヤに通っていたのに、全く気付いてなかったシブヤの魅力と出会い、シブヤが大好きになりました。

ゼミに参加して得た学びや気づき

2/3

みかちゃん

遊びに行ったまちの個性・特性を考えてみたいと思った。

えいようさん

フランクな集まり・場から真面目さが生まれるのを実感した。

山P

今回参加したことで都市の面白さや、都市を見る視点を得ることが出来ました。

おつ君

普段「なんとなく」で好き好んで歩いていた街や通りが、なぜそこが好きなのか言語化しやすくなった。

みっちゃん

誰かと一緒に、街をただ歩く行為そのものが、お互いを知り、信頼関係が深くなることも知りました。

ゼミに参加して得た学びや気づき 3/3

みっちゃん

他メンバーの影響で、どんどん発想が自由になっていく、そんな瞬間が度々ありました。

おつ君

（大学生の自分に対して）「経験」がないことはデメリットではないという言葉がかなり印象に残った。

せおさん

歳を取ったなあ、と感じさせられる時もあれば、まだまだ私も若い、と勇気をもらった時もあり、人生百年時代を迎え、ぼんやりしていた将来が少し明るく見えました。

鼎談
～"しぶやをつくるゼミ"をつくる～

（左）一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント 齋藤 藍 ／（中央）NPO法人シブヤ大学 深澤まどか（右）／ 青山学院大学国際マネジメント研究科 助手 竹田琢

2021年からスタートしたNPO法人シブヤ大学（シブヤ大学）と一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント（渋谷エリマネ）の協同プロジェクト「しぶやをつくるゼミ」。企画チームの3名（シブヤ大学 深澤まどか/渋谷駅前エリアマネジメント 齋藤藍/青山学院大学 竹田琢）で「しぶやをつくるゼミ」について語りました。

※この鼎談は渋谷駅前エリアマネジメントのHPに掲載されているコラムと同内容です。

渋谷駅前エリアマネジメント齋藤（齋藤）：「しぶやをつくるゼミ」が始まったきっかけや経緯を教えてください。

NPO法人シブヤ大学深澤（深澤）：渋谷エリマネさんの「渋谷に住む人や訪れる人たち、まちづくりに馴染みがない人たちの声を取り入れていくためにはどうしたらよいか」という思いからスタートしました。シブヤ大学は日頃から幅広いテーマで多世代に向けて学びの場作りをしている組織なので、その強みを生かしながらできた場が「しぶやをつくるゼミ」です。
実は私自身も、公共のまちづくりやルールづくりに対して、あまりなじみがなかったのですが、渋谷エリマネさんと出会って会話を重ねていく中で、表には見えづらいけれど、公共的な観点からまちをより良くしていくために必要な取り組みをされている団体だと知りました。「渋谷」は再開発も進んでいますし、一見すると私たちがまちに関わる余白なんて無く見えます。そんな渋谷で、まちについて自由に意見を交わせる場所となる余白をつくりたいという渋谷エリマネさんの思いに共感して、一緒に企画づくりを始めました。

齋藤　今年からチームに参加してくださっている竹田さんから見て「しぶやをつくるゼミ」はどのように見えていますか。

青山学院大学 竹田（竹田）：専門は認知科学という分野で、普段はワ

ークショップやグループワークなどの学びの場で人がどんなコミュニケーションをとりながら学んでいくのかに関する研究をしています。「しぶやをつくるゼミ」には、元々学生時代の友人である深澤さんから「ワークショップ（ゼミのプログラム）のデザインを手伝って欲しい！」と声をかけてもらって参画しました。

ゼミの運営に参画して、まずは運営の中心メンバーであるお二人がフラットに議論をしていることが印象的でした。お二人は、純粋に参加者がどうすれば歩きたくなる街を探究できるのか？どんなサポートが必要なのか？といった、学習者の立場に立ってゼミを設計されていました。自分の研究や実践でも、学習者視点に立った教育プログラムの開発は非常に大事にしていることの一つだったので、すぐにチームに溶け込めました。運営メンバーも様々な所属先の人で組織されているのですが、大事にしたいコンセプトを共有できているので、毎回のゼミのミーティングや振り返り会は白熱しながら、良いゼミの環境を作ることを追求できています。

齋藤　2021年の第１期に始まり、今年は３期となります。今期のゼミの特徴や狙いについて教えてください。

深澤　今期は、会議室の中だけで話すのではなく、できるだけまちに

出ることを意識してプログラムを設定しています。まちに出て体験することで、ネットで調べるだけでは得られない新しい気づきやアイデアが実際に生まれてきています。
また、今期も10代の学生から50代までの幅広い世代が参加してくださっていますが、渋谷が好きな人やまちづくりへの関心がもともと高い人だけではありません。半年間のプログラムに対して、参加者が高い熱量をもって参加してくれているのは、継続する楽しさや、チームで活動する楽しさを感じてくれているのだと感じます。

齋藤　まちに出ていくというスタンスは今期の「歩きたくなるまち・通りとは」というテーマにもぴったりですよね。初回のオリエンテーションでは参加者の皆さんと渋谷のまち歩きをしましたが、常日頃まちづくりを考えている私たちもハッとするような視点がたくさん示されました。このゼミの良さである自由さを失わないようなテーマ設定のために議論を重ねた甲斐があったと思っています。深澤さんや竹田さんは今期のゼミの中で印象に残っているエピソードはありますか？

深澤　「曲がった先にどんな光景が広がっているか予想できないのが面白い」という理由から、「曲がり角」について着目しているチームがあります。そのチームの中では、手間がかかったり面倒くさいと思える要素こそが、歩きたくなる＝価値になっている。必ずしも、わか

りやすく、迷わず、清潔な通りだけが正解じゃないんだと改めて教えてもらい、そんな自由な発想が面白いなと思います。

齋藤　そうですよね。私は、まちづくりは、自分のテリトリーだけではなく、少し広い視点で周りのことまで見て、考えることだと思っています。このゼミの中で、その視点をゼミ生も学んでくれている気がしますよね。
最後に、おふたりが考えるしぶやをつくるゼミの面白さや、今後の展望について教えてください。

竹田　このゼミ自体が、多様な人たちの集まりで、普段会わない人とディスカッションする機会になっていると思います。本来、背景が異なる初対面の参加者同士で、限られた期間内に一つのアウトプットを作成するというのは結構難しい課題であるはずです。ゼミの難しい課題に対して普段関わらない他者とコミュニケーションをとりながら参加者がどんなふうに学習し、価値観が変容していくのかについても興味があります。

深澤　私は個人が自由に考えたアイデアや思いが、実際のまちづくり活動に反映されていく可能性があること、しかも渋谷でその余白を設けていること自体が面白いなと思っています。東京・渋谷という大都

市では、普通に考えると一人の声は埋もれてしまいがちです。そんな場所で、個人の思いが表現され、他者と重ねられる場があることは、とても大事なことなんじゃないかなと個人的には思います。
今後は「しぶやをつくるゼミ」が個人と公共をつないでいく存在として育っていくことを目指して、卒業生や新たな参加者、様々な関係者の皆さんと、より良い活動のあり方を一緒に考えていきたいと思います。

おわりに

うまく言い表せないけれど、間違いなく素敵なこと。これをどうやって伝えるのか。それがこの１年間常に傍らにあった課題でした。
まちって実は誰にとっても身近なもので、考えてみると面白いんだってこと。小さなことでもまちづくりなんだってこと。そんな思いはどんなプログラムにしたら伝わるのか。全７回を終えるまで、常に追求してきました。
様々な人が垣根を越えて議論を楽しむこと。新しい気付きを得ること。自分が見てきた素晴らしいと思うシーンはどう言葉にすれば伝わるのか。全７回の活動を終え、この冊子を作る過程では日々そんなことを考えていました。
悩んだ過程とそこから生まれた素敵な一瞬が少しでも読んだ方に伝わったらこれほど嬉しいことはありません。

齋藤 藍／渋谷駅前エリアマネジメント

「答えのない中を泳ぐのって苦手なんです。指示された方が楽じゃないですか。自由でいいよ、って言われると途端に難しい。だけど今回、“超主観で自由にやってみよう”って後押ししてもらって、とても楽しかった。自由って、楽しいですね。」
ゼミ後の打ち上げで、ぽつりと言ってもらった言葉が印象に残っています。
自由って、面倒なこともあったり、手間もかかるし、確かに大変です。けれど、自分たちでなにかをつくっていくことは、その過程も含めて楽しいものなのだと思います。
渋谷という大都会の中で、自由に海を泳ぐ気持ちになれるような、個人の思いを重ねられる場であり続けることを願って。今期もたくさんの方の思いが重なり、またとないゼミになりました。ありがとうございました！

深澤まどか／シブヤ大学

「しぶやをつくるゼミ 3期」
実施期間: 2023年10月〜2024年2月
発行日: 2024年4月
デザイン: 中村圭佑
共催: 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント、特定非営利活動法人シブヤ大学
問合せ先: 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント 〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1丁目3番8号丸共ビル4階
特定非営利活動法人シブヤ大学 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-6 JP noie 恵比寿西1F co-ba ebisu